

令和6年度 第2回近江八幡市公共下水道事業審議会 会議記録（別紙）

開催日時 令和7年3月10日(月) 15:15～16:45  
開催場所 近江八幡市水道事業所 3階AB会議室  
出席者 ◎西谷会長、○谷上副会長、山下委員、北川委員、  
小椋委員、井上委員、中田委員、田中委員、松若委員  
欠席者 なし  
事務局 【水道事業所】中西所長  
【上下水道施設課】苗村課長、(下水道G)石原課長補佐  
【上下水道総務課】西川課長、(経理・料金G)大野課長補佐  
(経営G)友岡課長補佐、北川専門員、藤主事

< 内 容 >

	1. 開会
会長	2. 会長挨拶 下水道は今すごく注目されており、八潮市の下水道管の事故は流域下水道という大きな管の破損によるものであった。近江八幡市にも流域下水道の管はあるが、あれほど大きなものではないので、八潮市のように下に穴が開いて人が流されるというような事故は想定しづらい。 これから事故原因等調査があると思うが、八潮市の事故があった流域下水道を管理する埼玉県にも下水道の審議会があったはずで、そうすると審議会では何をしていたのかという話になりかねない。市民目線というのは本当に大切なので、日常的に気付かれる疑問が突破口になって大きな問題に気付くということもあるので、ぜひご発言いただければ。
事務局	3. 報告 (1) 下水道管路の状況について 1月28日の八潮市の事故を受けて、ご心配いただいている部分もあるかと思うので、本市の下水道の状況について説明する。 埼玉県によると、破損した下水道管は流域下水道であり、処理場の手前の管だったと聞いている。昭和58年に整備され、直径4.75メートルの管が深さ10メートルの位置に埋設されていた。個人的な見解だが、汚水から発生する硫化水素と酸素が結合して硫酸となり、

	<p>管を溶かしていったのではないかと思っている。</p> <p>近江八幡市の下水道管路についても、同様に硫化水素が発生する可能性があると言われている。基本、自然流下で汚水を流しているが、深くなってくるとマンホールポンプで上にあげる必要がある。この段階の汚水が溜まる部分で硫化水素が発生しやすいということで、ポンプ付近は腐食防止塗装をし、対策及び毎年チェックし、監視している状況である。</p> <p>本市で管理している下水道管路については、最も古いもので昭和54年に築造され、最も管径が大きいもので1.2メートルである。市内の県が管理する流域下水道については、管径1.8メートルが最大であり、処理場のある草津市の矢橋帰帆島付近では約4メートルの管が地中にある。</p> <p>これら管径からも、埼玉県ほどの大きな事故は起こらないので、安心していただければと思う。毎年主要な管路はテレビカメラで点検して維持管理している。ただ、全長が長いので、すべての管を把握できているわけではない。今後も安全を確保し、監視していく。</p> <p>4. 議事</p> <p>会長 議事(1)～(3)の合計3つあるので、1つずつやっていきたいと思う。まずは令和7年度予算(案)概要について、事務局より説明をいただきたい。</p> <p>事務局 (1) 令和7年度予算(案)概要について 【資料1、2】に基づき説明。</p> <p>会長 下水道事業については、基本的には料金回収で賄っておらず、一般会計(税金)からお金をいただいてやりくりしていたが、このような経営は不健康であるということで、来年度からは独立採算のため、その分を国に借金して経営することになる。</p> <p>補てん財源の③当年度分損益勘定留保資金についても一度説明願いたい。</p> <p>事務局 資本的収支予算ではマイナスになるが、収益的収支予算の中で減価償却費というものを計上している。イメージとして、1億円の下水道工事をして、その下水道管が50年もつとしたとき、実際には支出していないが、1億円を50(年)で割った額を毎年支出経費として計</p>
--	--

	<p>上している。この分が実際には貯金として換算され、損益勘定留保資金となり、資本的収支予算のマイナス部分をカバーしている。</p>
会長	<p>3条で2,800万円しか儲かっていないが、実際にお金の余裕としては12億円ほどある。このうちの半分と少しを資本的収支の赤字(7億円)に充てている。経営状況として、厳しいのは厳しいが、お金のやりくりは何とかやれているというようなイメージ。</p> <p>また、借金が100億円を超えており、今後も増えていきそうな感じがするので、これについては徐々に深刻な状況が近づいてきているという感じである。</p>
事務局	<p>(2) 経営状況について 【資料3】に基づき説明。</p>
会長	<p>全体的に、資金的な面で少し苦しくなっているというということがわかる。老朽化率で青い棒グラフがないのはどういうことか。</p>
事務局	<p>対象管渠がないということである。</p>
会長	<p>上水道は青い棒グラフがあったが、下水道に関しては管を伸ばした時期が遅く、まだ出ていない。ただ、出てくるときは一気に出てくると思われる。</p>
委員	<p>水洗化率が令和元年から5年にかけてあまり増えてないが、特別な理由があるのか。</p>
事務局	<p>本市において、汚水処理を公共下水道と合併浄化槽で処理しており、公共下水道の整備が終わった地域に元々合併浄化槽を使用されている方もいる。整備済み地域は3年以内に公共下水道に接続するようという努力義務があり、呼びかけてはいるものの、なかなか接続が進んでいないという現状である。</p>
会長	<p>おそらく、市としては呼びかけてはいるものの、市民もなぜ浄化槽で処理できるのに費用をかけて下水道接続しないといけないのかというところで、あまり水洗化が伸びていないのだろう。</p>

事務局	<p>(3) 社会資本総合整備計画の事後評価について 【資料4-1、4-2、4-3】に基づき説明。</p>
会長	<p>(1) (2) とは異なり、当審議会にて評価するというので、皆さまの合意が必要となる。</p> <p>計画の目標は様々な解釈ができるようにざっくりと示してあり、計画の成果目標は数値で示してある。交付対象事業の中に「マンホールポンプ」という文字は出てこないが、ストックマネジメント対策実施の中で長寿命化対策が行われている。</p> <p>管渠については、長寿命化を予定していたが、そもそも長寿命化すべき管渠がなかったということで、調査にのみ費用が発生したところだと思うが、その調整は一般会計でさせたということか。</p>
事務局	<p>管路調査に係る費用については、「A07-004（近江八幡市ストックマネジメント対策実施）」に含まれている。</p>
会長	<p>この中で入っており、調査の結果、対策の必要はなかったということか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
会長	<p>マンホールポンプは数値目標を達成できており、管渠は対策の必要がなくなったということで、建前的には目標に対して達成できている。民間の方は、4億3,100万円のうち1億8,000万しか使っていないということで、もったいなく感じる方もいるかと思うが、1億8,000万のところで目標達成できているのであれば、それでよからうという評価もあるかと思う。ここまでで疑問等ないか。</p>
委員	<p>沖島の浄化センターは沖島の中で全部きれいにして琵琶湖へ流しているのか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。沖島内に管路があり、沖島浄化センターで処理し、琵琶湖へ流している。</p>
委員	<p>雨水対策について、今後の方針の中で雨水出水浸水想定区域図を作成するとあるが、土地の低い所は当然浸水のリスクがあり、近年の気</p>

	<p>象状況の急激な変化に伴い、集中豪雨による被害なども考えられる。現時点でそのような場所は把握しているのか。</p>
事務局	<p>令和元年か2年頃に雨水管理総合計画を策定した際に、高さなどの地形情報だけでシミュレーションした簡易的な市内全域の雨水出水浸水想定区域図は作成している。過去に被害のあった場所等のデータも含めて把握している。ただ、簡易的なものであるため、公表まではしていない。今回の作成は精度の高い詳細なモデルを予定している。国から作成及び公表を義務付けられているので、公表まで行う。</p>
会長	<p>この議事は今、結論を出さないといけないので、皆さまに納得いただいたうえで、妥当かどうか判断しなければならないが、妥当ということに認めてよろしいか。</p>
委員	<p>委員一同、了承</p>
会長	<p>では、妥当とする。</p>
事務局	<p>5. その他  次年度の審議会については、3～4回程度の開催を予定している。次年度には令和2年度に策定した経営戦略の改定を行う。改定にあたり、検討事項についてご意見ご審議を賜りたい。よろしくお願ひします。</p>
副会長	<p>6. 閉会  審議会に参加させていただき何年か経つが、審議会の度に地震や事故が全国で発生しており、老朽化が加速する、かつ地中という見えなところにある下水道を維持管理する大変さを改めて感じるころである。</p>